

令和 2 年 6 月 5 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03780

研究課題名(和文) 持続可能な大学組織の探索：組織の規模と範囲・組織間関係の現状・変容・存続の分析

研究課題名(英文) Searching for sustainable university organizations: analysis of the scale, scope, current status, transformation, and survival of inter-organizational relationships

研究代表者

村澤 昌崇 (Murasawa, Masataka)

広島大学・高等教育研究開発センター・准教授

研究者番号：00284224

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,200,000円

研究成果の概要(和文)：主たる成果は以下の通り。計量データにより、大学組織形態(規模の程度、範囲の多様性)、ガバナンス、組織文化が成果にもたらす影響を検討した結果、近年政府主導で進められたガバナンスの効果はみられず、むしろ規模や範囲、専門分野構成、歴史・威信等によって成果が規定されること、そして大学の規模・範囲自体が大学の歴史や威信により規定されることが明らかにされた。この知見を踏まえ、大学ランキングに従属的で拙速な、大学の多様性を無視した政策主導の大学組織改革は、むしろ大学を弱体化させ持続可能性を低下させる可能性のあることを指摘した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義：高等教育の組織研究を進める上で欠かせない、理論研究の整理検討および卓越した分析方法の摂取と応用を行い、高等教育研究のレベル向上を進めた。特に、数量データの分布に適切な分析モデルの応用、そして近年注目される因果推論の方法を応用し、大学の成果に与える要因分析を行った結果、近年進められる組織改革の有効性は見いだせず、大学の規模や範囲、歴史や威信の影響が確認された。

社会的意義：以上の分析結果は、近年進められてきた政策や大学改革の見直しの必要性を訴えるものであり、実際の大学経営へ生かせる知見を提供しうる。

研究成果の概要(英文)：The main achievements are as follows: As a result of examining the influence of university organizational structure (degree of scale, diversity of scope), governance, and organizational culture on the outcome, based on quantitative data, the effect of the government-led governance in recent years was not observed. Rather, the outcome of a university would be defined by the scale and scope of the university, the composition of major fields, history and prestige. Furthermore, it was clarified that the scale and scope of the university are regulated by the history and prestige of the university. Based on this finding, we pointed out that policy-driven university organizational reform that is subordinate to the university rankings and that ignores university diversity may rather weaken the university and reduce its sustainability.

研究分野：高等教育論, 教育社会学

キーワード：高等教育 ガバナンス サステナビリティ 組織論 組織の生存 大学経営 組織の意思決定

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 実践上の課題:文部科学省「国立大学経営力戦略」(平成27年6月16日)により、大学の機能強化のための大胆な組織改革が課題となった。しかしこれまでの諸改革は、効率性・生産性偏重による大学の規模・範囲の改変がもたらす多方面への影響、地域型連携の大学間格差(威信・質)の問題、分野型連携の地理的距離や時間コストの問題等々が十分に考慮されていない。ゆえに、長期的に持続可能な大学の組織形態をあらためて論じる必要がある、という認識に至った。

(2) 研究上の課題:上記の課題を踏まえ、学術的には近年取り組んだ科学研究費補助金による研究等から着想を得ている。これまで「大学組織の意思決定・行動における横並び・相互参照・模倣行動に関する研究(研究課題番号21530883)、大学の環境適応:組織構造・規模の成立と変容に関する分析と適正性の推定(研究課題番号24531068)等を行い、以下の課題への着手の要を認めた: .組織の形態の多様性(単体の規模と範囲、連携・連合、統廃合、法人との関係等)の把握、 .目的・戦略、アクター、投入諸資源、産出(公平性、平等性、卓越性、効率)との関係性の分析、 .持続可能な、多元的な価値を追求できる大学の組織形態の適正解(満足解)の模索

### 2. 研究の目的

研究目標:本研究は、国内外への訪問調査・国際比較と数理・計量分析を通じ、世界的規模で進行中の大学の組織変容(規模と範囲の変容、連携連合・統合等の取り組み)の目的・種類・効果に関するメカニズムを解明し、持続可能な大学組織形態の適正解を見いだす。具体的には以下の通りである。

(1) 多様な大学組織を包括的に説明可能な理論枠組みの構築:合理・非合理システム論、組織エコロジー論、資源依存論、制度論、取引コスト論などを下地とした仮説枠組みの設計

(2) 大学組織形態の観測と類型化:単体としての規模と範囲(専門分野・学部/大学院構成)、複数組織の関係性(垂直・水平・救済・強化・再編・調整・同盟・法人型など)

(3) 目的・戦略、アクター、資源、産出(観点としては近年の効率性や卓越性だけでなく公平性・公共性・平等性を重視)と組織形態との関係性

(4) 多様な組織の生存条件の推定、持続可能な組織形態の適正解(満足解)を目的・アクター別に模索

### 3. 研究の方法

本研究では、大学単体としての規模と範囲の変容、組織間連携・統合を通じた変容のメカニズムを析出し、持続可能な組織形態のあり方を模索する。具体的には、次の3つにおいて優れた実績を有しているメンバーの力を結集した総合的な研究を行った。

(1) 大学の組織変容、連携・統合に関する先行研究および実態分析

(2) 方法論としてのフィールド・スタディ

(3) 方法論としてのデータ分析・数理シミュレーション

### 4. 研究成果

(1) 大学組織の包括的解明と大学成果との関係性の分析

大学組織に関する基礎研究の一環として、Bess&DeeのUnderstanding College and University Organizationの翻訳勉強会を進めたことにより、日本の高等教育研究における組織論的アプローチへの道筋が見出された。その成果の一部は羽田(2017,2019)によりまとめられ、RIHE公開研究会にても議論された(<https://bit.ly/2BAwYUd>, 第6回)。また数量的な分析も合わせて展開され、村澤(2017)、野村・村澤(2017)、村澤・中尾・松宮(2019)等にまとめられると同時に、RIHE公開研究会(<https://bit.ly/372n4WT> (2017年度第8回),<https://bit.ly/2UcmnoU> (2018年度第1回))および学会・国際高等教育改革ワークショップ(2016年9月:ダブリン)等にて成果報告を行った。

これら成果の骨子は以下の通り: 合理・非合理システム論、組織エコロジー論、資源依存論、制度論、取引コスト論等の経営学理論により、高等教育組織の行動の説明可能性を高めた、大学組織固有の階層性・組織文化・リーダーシップの在り方の発見、高等教育業界におけるガバナンスとマネジメントの混同、リーダーシップに関する誤解と乱用、等が明らかにされた。さらに、ガバナンスの違いが成果の違いには直結し得ず、成果はむしろ大学の規模や範囲、専門分野構成、歴史・威信等によって決まること、大学の規模・範囲が歴史や威信により規定されることが明らかにされた。その上で、大学ランキングに従属的で拙速な、大学の多様性を無視した政策主導の大学組織改革は、むしろ大学を弱体化させ持続可能性を低下させる可能性のあることを指摘した。

## (2)卓越した分析方法の応用可能性と大学の組織・経営分析および実践への応用

本研究課題を進める上で、方法論の継続的卓越化は欠かせない。しかしながら高等教育研究では方法論の著しい遅れがある。そこで本研究課題を遂行するために必要な方法論(計量分析)の卓越化を進める研究を展開した。その成果は、村澤・立石(2017)、中尾・村澤(2018)、立石・丸山・速水・松宮・中尾・村澤(2019)、村澤・中尾・松宮(2019)等にまとめられた。

それら成果の骨子は、高等教育研究で応用された計量分析の誤用乱用の実情、データの分布に適したモデリングの可能性、近年「証拠に基づく政策形成」(Evidence-Based Policy Making)で推奨される「因果推論」の検討を通じた、高等教育研究の因果推論の遅れ、および社会科学全般における因果推論の統合的理解とより適切な応用の必要性、を指摘した。これら成果を応用し、西谷他(2019)において、広島大学が実施するSERU(Student Experience in the Research University)国際学生調査プロジェクトデータを活用した傾向スコア分析を報告した。これら成果は、学会発表を通じても発信した。

また併せて、研究課題に関わる方法論に関する研究会・研修を主催し(広島大学高等教育研究開発センター公開研究会: <https://bit.ly/34EQTLX>, 広島大学高等教育研究開発センター・高等教育研究資源ナショナルセンター主催活動: <https://bit.ly/2X3FQKo>)、方法論の継続的な卓越化を推進・啓発すると共に、大学IR研修(<https://bit.ly/3eWv3Yx>)を通じて、個別機関の規模・範囲に応じた、望ましい経営分析の在り方を提供した。いずれの研究会・研修会も定員を充足し、盛会裏に終えている。

## (3)国際比較

シンガポールで現地調査を2度実施し、国立シンガポール大学、南洋理工大学、シンガポール経営大学、シンガポールのポリテクニク5校を訪問し、過去20年間の大学の戦略、組織、国際連携の変革について聞き取り調査を行った。その結果、世界レベルの大学へと展開するための強力なトップダウン型の改革が断行されていることが明らかになった。

さらに、フランスにおける大学組織の在り方や統合・連携等についての調査研究を行い、大学の統合・連携の進展が進行しつつあり、全ての大学が統合又は地域毎に連携しなければならないことが明らかになった(大場2017)。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計33件（うち査読付論文 15件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 15件）

1. 著者名 立石 慎治, 丸山 和昭, 速水 幹也, 松宮 慎治, 中尾 走, 村澤 昌崇	4. 巻 104
2. 論文標題 高等教育研究と計量分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育社会学研究	6. 最初と最後の頁 29-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 小方 直幸, 立石 慎治, 串本 剛	4. 巻 52
2. 論文標題 国立大学における組織再編と学士課程教育の再構築: 専門分野・教員組織・教育課程の相互連関	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大学論集	6. 最初と最後の頁 19-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 湯川やよい, 坂無淳, 村澤昌崇	4. 巻 104
2. 論文標題 大学教授職研究は何をなすうるか: 成果と展望	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育社会学研究	6. 最初と最後の頁 81-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 村澤昌崇, 中尾走, 松宮慎治	4. 巻 19
2. 論文標題 大学の研究生産とガバナンス	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 名古屋高等教育研究	6. 最初と最後の頁 153-169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18999/njhe.19.153	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shin, J.C., Watanabe, S.P., Chen, R., Ho, S., and Lee, J.	4. 巻 46
2. 論文標題 Institutionalization of Competition-based Funding under Neoliberalism in East Asia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Studies in Higher Education	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 松宮慎治	4. 巻 52
2. 論文標題 私立大学等経営強化集中支援事業は経営を改善するか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大学論集	6. 最初と最後の頁 35-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中尾 走	4. 巻 52
2. 論文標題 大学ガバナンスの効果測定に関する探索的研究 : 項目反応理論を用いたガバナンス変数の妥当性の検証	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大学論集	6. 最初と最後の頁 101-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hotta, Taiji	4. 巻 24
2. 論文標題 The Development of "Asian Academic Credits" as an Aligned Credit Transfer System in Asian Higher Education	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Studies in International Education	6. 最初と最後の頁 167-189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/1028315318822797	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 阿曾沼明裕	4. 巻 615
2. 論文標題 大学の組織と教育・研究機能（教育と研究の間）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 IDE：現代の 高等教育	6. 最初と最後の頁 28-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿曾沼明裕	4. 巻 30
2. 論文標題 米国の高等教育機関に対する政府財政補助の規模とフロー - 個別大学データベースIPEDSを利用して -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アメリカ教育研究	6. 最初と最後の頁 28-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 羽田貴史	4. 巻 104
2. 論文標題 高等教育研究の制度化と教育社会学 - 分化と統合	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育社会学研究	6. 最初と最後の頁 7-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白川優治	4. 巻 1
2. 論文標題 「学生納付金」のあり方を問うー私立大学の現状と課題から-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 一般社団法人私立大学連盟『令和元年度 第2回財務・人事 担当者会議報告書 あらためて学納金を考える』	6. 最初と最後の頁 5-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮田弘一	4. 巻 52
2. 論文標題 授業者の認識変容プロセスに着目したキャリア教育科目の授業サイクルに関する質的分析 - M-GTAを用いて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大学論集	6. 最初と最後の頁 51-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村澤昌崇・中尾走・松宮慎治	4. 巻 19
2. 論文標題 大学の研究生産とガバナンス	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 名古屋高等教育研究	6. 最初と最後の頁 153-169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18999/njhe.19.153	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 羽田貴史	4. 巻 609
2. 論文標題 グランドデザイン答申をどう読むか 審議過程と連携・統合・アンブレラ方式 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 IDE 現代の高等教育	6. 最初と最後の頁 56-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 羽田貴史	4. 巻 19
2. 論文標題 高等教育研究の制度化と大学教育研究センター	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 名古屋高等教育研究	6. 最初と最後の頁 5-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大場淳	4. 巻 14(6)
2. 論文標題 フランスにおける高等教育改革：高等教育機関の連携・統合を巡って	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大学マネジメント	6. 最初と最後の頁 33-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大場淳	4. 巻 151
2. 論文標題 人文・社会科学と大学自治	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 高等教育研究叢書	6. 最初と最後の頁 77-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿曾沼明裕	4. 巻 2
2. 論文標題 国立大学の機能強化のための統合・連携 - 東海国立大学機構を事例に -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 兵庫高等教育研究	6. 最初と最後の頁 47-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村澤昌崇・立石慎治	4. 巻 20
2. 論文標題 計量分析の新展開－過去10年間の経験を振り返って－	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 高等教育研究	6. 最初と最後の頁 135-156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 中尾走・村澤昌崇	4. 巻 9,XI
2. 論文標題 大学教員の生産性分析：再考－新たな計量分析の試み：欠損値補完・サンプリングバイアス補正・“ゼロ”の意味の解釈－	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際共同研究推進事業：ディスカッションペーパーシリーズ・戦略的研究プロジェクトシリーズ	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 阿曾沼明裕	4. 巻 26
2. 論文標題 米国研究大学の分権的運営を支える部局の経営	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 年報 科学・技術・社会	6. 最初と最後の頁 41-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤墳智一	4. 巻 2
2. 論文標題 学士課程教育における自習の効果とその促進要因：『全国大学生調査』の分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育・学生支援センター紀要	6. 最初と最後の頁 11-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤墳智一	4. 巻 44
2. 論文標題 工学部の卒業研究における産学連携の効果：主体的学習の重要性に着目した『公募型卒業研究』の事例	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大学研究	6. 最初と最後の頁 23-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大場淳	4. 巻 138
2. 論文標題 大学運営におけるリーダーシップ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 高等教育研究叢書	6. 最初と最後の頁 27-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大場淳	4. 巻 1
2. 論文標題 大学の組織運営と教職員	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大学改革支援・学位授与機構編『教員と職員：学生のための大学をつくる』平成29年度大学質保証フォーラム報告書	6. 最初と最後の頁 52-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Satoshi P. Watanabe, Yasumi Abe	4. 巻 17
2. 論文標題 CHANGING MISSIONS AMONG PUBLIC UNIVERSITIES IN CALIFORNIA AND NEW YORK: Application of a Concentration Equality	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Research and Occasional Paper Series. CSHE	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Satoshi P. Watanabe, Machi Sato, and Masataka Murasawa	4. 巻 February 2018
2. 論文標題 State Initiatives on Globalizing Higher Education in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Oxford Research Encyclopedia of Education	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/acrefore/9780190264093.013.208	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 羽田貴史	4. 巻 20
2. 論文標題 テクノサイエンス・リスク社会における研究倫理の再定義	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 高等教育研究	6. 最初と最後の頁 11-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 羽田貴史	4. 巻 39-2
2. 論文標題 危機に立つ教養教育 - 大綱化後4半世紀の課題と将来 指定討論『教養教育の何が危機なのか』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 大学教育学会誌	6. 最初と最後の頁 24-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高等教育における組織・ガバナンス研究会 (監修)、野村朋絵・村澤昌崇 (編)	4. 巻 8, XI
2. 論文標題 大学における教学ガバナンスとその効果に関する調査研究	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国際共同研究推進事業：ディスカッションペーパーシリーズ・戦略的研究プロジェクトシリーズ	6. 最初と最後の頁 1-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 羽田貴史	4. 巻 138
2. 論文標題 高等教育におけるリーダーシップ：経済学・経営学との接触反応がもたらすもの	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 高等教育研究叢書	6. 最初と最後の頁 17 - 22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村澤昌崇	4. 巻 138
2. 論文標題 大学におけるリーダーシップと環境・戦略・組織特性そして成果ー全国学部長アンケート調査に依拠して	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 高等教育研究叢書	6. 最初と最後の頁 43 - 64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 松宮慎治, 中尾走, 村澤昌崇
2. 発表標題 EBPMにおける分析方法の応用可能性と課題
3. 学会等名 日本高等教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村澤昌崇
2. 発表標題 登壇者へのコメント (課題研究「教育の社会科学的実証研究再考 教育社会学 と教育経済学の共通点と相違点から何を学ぶか 」)
3. 学会等名 日本教育社会学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中尾 走
2. 発表標題 傾向スコア分析の比較
3. 学会等名 日本教育社会学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 阿曾沼明裕
2. 発表標題 大学組織のマトリクス化 - 教員組織、教育組織、研究組織・研究所の関係を考える
3. 学会等名 日本高等教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮田弘一
2. 発表標題 キャリア教育科目の授業者が科目横断的な視座を獲得するプロセスの質的分析 - M-GTAを用いて
3. 学会等名 大学教育学会第41回大会（玉川大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松宮慎治・中尾走・村澤昌崇
2. 発表標題 高等教育組織の行動選択とパフォーマンス 『大学四季報』データの活用を中心に
3. 学会等名 日本高等教育学会第21回大会自由研究発表
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 羽田貴史
2. 発表標題 アメリカにおける学問の自由をめぐる危機 - Freedom of Faculty vs. Freedom of Institution -
3. 学会等名 日本高等教育学会第21回大会自由研究発表
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 羽田貴史
2. 発表標題 学問の自由の危機 授業における自由はだれのためのものか？
3. 学会等名 日本教育社会学会第70回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 羽田貴史
2. 発表標題 日本の高等教育政策と研究環境・研究評価
3. 学会等名 広島大学高等教育研究開発センター第46回研究員集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 羽田貴史
2. 発表標題 政策決定過程の変容と高等教育：2010年代高等教育政策決定過程の特質
3. 学会等名 広島大学高等教育研究センター第12回公開研究会 高等教育研究プラットフォーム主催セミナー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大場淳
2. 発表標題 フランスにおける大学連携・統合：成功と失敗の要因
3. 学会等名 日本高等教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大場 淳
2. 発表標題 フランスにおける大学連携・統合の現状と課題：政策の形成・実施を巡って
3. 学会等名 日本教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大場 淳
2. 発表標題 フランスにける大学連携・統合：マクロン政権の政策
3. 学会等名 日仏教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小方 直幸・立石 慎治・島 一則・串本 剛
2. 発表標題 国立大学における人文・社会系学部の改組新設：組織の編成とカリキュラム
3. 学会等名 日本高等教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 阿曾 沼明裕
2. 発表標題 学位プログラムの多様性 - 米国研究大学の事例から -
3. 学会等名 日本高等教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 立石慎治（杉本和弘・猪股歳之との共同発表）
2. 発表標題 高等教育機関におけるミドルマネジメント人材の特性と能力育成に向けての課題
3. 学会等名 日本高等教育学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 村澤昌崇（秦由美子、大膳司、大場淳、天野智水、前田一之との共同発表）
2. 発表標題 日本の高等教育におけるガバナンス・組織文化・成果の関係に関する調査研究 全国学部長アンケート調査に依拠して
3. 学会等名 日本高等教育学会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 西谷元, 相田美砂子, 渡邊聡, 村澤昌崇, 安部保海, 梅下健一郎, 中尾走, 荒見泰史, 丸山恭司, 佐藤万知, 川本尚枝, 島津礼子, 小澤郁美, Simona Zollet, 柴田美紀, フンク カロリン, 小澤孝一郎	4. 発行年 2019年
2. 出版社 広島大学高等教育研究開発センター	5. 総ページ数 129
3. 書名 スーパーグローバル大学創成支援事業による広島大学の教育力・研究力強化( ) : EBPMと質保証	

1. 著者名 羽田貴史	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 336
3. 書名 大学の組織とガバナンス	

〔産業財産権〕



〔その他〕

高等教育研究プラットフォーム  
<http://www.herpt.hiroshima-u.ac.jp/doku.php?id=home>  
 高等教育における組織・ガバナンス研究会  
<https://sites.google.com/site/hegovorg/home>  
 高等教育研究資源ナショナルセンター  
<https://rihe.hiroshima-u.ac.jp/liaison-center/national-center/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	羽田 貴史  (Hata Takashi)  (90125790)	東北大学・高度教養教育・学生支援機構・名誉教授   (11301)	
研究分担者	阿曾沼 明裕  (Asonuma Akihiro)  (80261759)	名古屋大学・教育発達科学研究科・教授   (13901)	
研究分担者	白川 優治  (Shirakawa Yuji)  (50434254)	千葉大学・国際教養学部・准教授   (12501)	
研究分担者	藤埜 智一  (Fujitsuka Tomokazu)  (30248637)	宮崎大学・教育・学生支援センター・准教授   (17601)	
研究分担者	立石 慎治  (Tateishi Shinji)  (00598534)	国立教育政策研究所・高等教育研究部・主任研究官   (62601)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	安部 保海 (Abe Yasumi)  (20531932)	広島大学・教育室・研究員  (15401)	
研究分担者	堀田 泰司 (Hotta Taiji)  (40304456)	広島大学・森戸国際高等教育学院・教授  (15401)	
研究分担者	大場 淳 (Oba Jun)  (50335692)	広島大学・高等教育研究開発センター・准教授  (15401)	
研究分担者	渡邊 聡 (Watanabe Satoshi)  (90344845)	広島大学・高等教育研究開発センター・教授  (15401)	
研究協力者	宮田 弘一 (Miyata Hirokazu)		
研究協力者	松宮 慎治 (Matsumiya Shinji)		
研究協力者	中尾 走 (Nakao Ran)		
研究協力者	野村 朋絵 (Nomura Tomoe)		